

協議会で検討・協議したいこと

分類	協議会で検討・協議したいこと		組織
牧野の利用、 維持管理方針	採草地の利用・維持管理	採草地の今後の運営をどうやっていくか。	区・牧野組合等
	合理的な牧野利用	牧野の利用計画	農林畜産業
	維持管理の担い手不足への対応	農村部の高齢化、後継者不足等のため、維持活動が難しくなっているためその問題をどのように解決していったらよいか。	区・牧野組合等
	維持管理の担い手不足への対応	有畜農家が減少していること。	区・牧野組合等
	維持管理の担い手不足への対応	高齢化が進む中でのこれからの草原の維持管理について	農林畜産業
	防火帯整備手法	防火帯作りでのブル使用による原野(環境)破壊について	ボランティア
	再草原化	放牧、採草地、野焼きを停止した原野の藪化、雑木林化した地域の草原再生について	ボランティア
	里道の復活	阿蘇山麓北外輪山麓に里道の復旧、整備、景観保全。	区・牧野組合等
	維持管理の人手、資金	草原を維持するための人手、資金はどうしたらいいのか。	その他
	地元主体の維持管理継続	地元主体の草原維持管理継続のための手法と事業展開。	その他団体
	地元主体の再生手法 近代農業技術の歴史的評価と野草地の多面的機能の評価	草原を守ってきた伝統的システムの再生を念頭に、再生の目標を大まかに分類し、地域住民が牽引役となる再生の手法や担い手像を明確化してみたい。研究者の立場としては、持続性や公益性の観点から近代農業技術の歴史的評価と野草地の多面的機能(恵み)の評価を試みたい。専門の知恵を拝借しながら、まず、できるところから手を着けていくものと思うが、あくまで草原を一部の視点から見のではなく、地域循環の総体としてとらえたい。	学識・研究者
生物多様性保 全	種の絶滅防止・回復のための持続可能な方策	阿蘇地域に固有の動植物や草原生態系などの生物多様性を、持続可能な方法で適切に保全して、阿蘇に生育する種の絶滅の防止・回復を図り、阿蘇の野の花を未来に引き継いでいくための方策について。	学識・研究者
	種の絶滅防止・回復のための持続可能な方策	阿蘇地域に固有の動植物や草原生態系などの生物多様性を、持続可能な方法で適切に保全して、阿蘇に生育する種の絶滅の防止・回復を図り、阿蘇の野の花を未来に引き継いでいくための方策について。	地元NPO/NGO等
	希少種保全策 盗掘等の防止策	今後3年以内に滅びる種の保全策を考える。 盗採、盗掘の罰則強化(現行方策は弱い)。	地元NPO/NGO等
	希少動植物の保全策	阿蘇の草原に生息生育している希少な動植物の保全策。	行政
	盗掘防止対策	盗掘防止、罰則強化、パトロール、再生教室(研究する)	その他
	動物分布、生態系調査と活用	自然資源、特に手薄になっている動物の分布生息および生態系調査と活用等について。	その他団体
	虫からみた草原再生	現在、国内の草原性の蝶は急激に減少しています。阿蘇の草原にはそれらの蝶がまだ見られますが、ここ10年で阿蘇の蝶も同じ運命をたどりつつあります。私は人間生活から見た草原再生ではなく、虫から見た草原再生を考えていきたいと思っています。	学識・研究者
	生物多様性保全のための 草原管理手法の検討	・草原の立地条件や管理条件が植物に及ぼす効果の科学的検証 ・草原再生に向けた諸管理の有効性を総合的に検討	学識・研究者

協議会で検討・協議したいこと<個人>

分類	協議会で検討・協議したいこと	職業等	
A. 草原維持管理 方策	合理的な牧野利用	牧野の利用計画	農林畜産業
	高齢化への対応	高齢化が進む中でのこれからの草原の維持管理について	農林畜産業
	防火帯整備手法	防火帯作りでのブル使用による原野(環境)破壊について	ボランティア
	防火帯整備手法	防火帯作りでのブル使用による原野(環境)破壊について	ボランティア
	再草原化	放牧、採草地、野焼きを停止した原野の藪化、雑木林化した地域の草原再生について	ボランティア
	科学的データに基づく再生手法の適用	シードベレットによる草原修復	学識・研究者
	維持管理の人手、資金	草原を維持するための人手、資金はどうしたらいいのか。	その他
B. 草資源の利用 拡大	野草地の放牧利用	野草地への放牧の検討	農林畜産業
	地域内での野草の循環利用	茅野を利用しハウス農家とのつながりを強くする	農林畜産業
	野草堆肥による農産物生産	草原の野草堆肥による農産物作り	農林畜産業
	バイオマス	地域活性化の一つの方法としてバイオマスを取り入れたいこと	地元有識者
	野草堆肥による農産物生産	草堆肥による農作物生産、地域循環型農業システムの振興	学識・研究者
	草資源の利用技術の普及、流通	草資源利用拡大のための利用技術の普及、流通・供給態勢の整備	学識・研究者
	草資源の新たな活用法	水環境、草資源の新たな活用法について検討・討議したい。	学識・研究者
C. 景観保全	外輪山の風車建設	外輪山の稜線における風車建設はやめるべきでしょう。誰もが景観としてそぐわないと言っています。	地元有識者
	風景地の利用者の立場からの景観資源に着目した検討	広域的視点からの阿蘇草原再生構想の作成、特に風景地の利用者の立場からの景観資源に着目した検討(例えば、散策歩道(フットパス)のネットワーク提案、阿蘇の二次草原の景観効果を最大限に発揮させるための景観管理計画の検討、それらに基づく国立公園計画の見直しなど)。	学識・研究者
D. 生物多様性 保全	生物多様性保全のための草原管理手法の検討	・草原の立地条件や管理条件が植物に及ぼす効果の科学的検証 ・草原再生に向けた諸管理の有効性を総合的に検討	学識・研究者
	虫からみた草原再生	現在、国内の草原性の蝶は急激に減少しています。阿蘇の草原にはそれらの蝶がまだ見られますが、ここ10年で阿蘇の蝶も同じ運命をたどりつつあります。私は人間生活から見た草原再生ではなく、虫から見た草原再生を考えていきたいと思っています。	学識・研究者
	盗掘防止対策	盗掘防止、罰則強化、パトロール、再生教室(研究する)	その他
E. 普及啓発/ 草原環境学習	地域の人々への普及	地域の人たちに今の現状を分かってもらうこと(学校での取り組みなど)	農林畜産業
	畜産以外の利用とルール	実際に草原再生の現場に人を入れるときの、その入れ方と問題点。	地元有識者
	草原文化伝承	阿蘇の乾草切り(刈乾)についての論文作成と土畦の再構築で昔の文化の伝承を	地元有識者
	幅広い普及活動	草原の成り立ちや必要性について調査し、より広く普及活動を行う。	地元有識者
	幅広い普及活動	多くの人が再生に向けて参加していただく方向を検討して、一人でも多くの方が協力していただくようにあらゆる方面に働きかけていくことが大切。このようなことを協議していかなければならないと思う。	ボランティア
	教育現場への普及	阿蘇付近の市外内学校へ説得する。また自然学校などを建てる。	その他

分類		協議会で検討・協議したいこと	職業等
F. 農畜産業の振興を通じた草原再生	環境保全型農業政策	田んぼとの関係。環境農業政策の提案。	学識・研究者
	畜産振興による草原の保全・維持・再生	畜産振興による草原の保全・維持・再生	学識・研究者
	農畜産振興による草原の保全・維持・再生	農畜産業の振興による草原の保全・維持・再生	学識・研究者
H. 草原として維持する範囲の検討	再生計画、行政支援	草原再生のタイムスケジュールと再生範囲の設定、草原再生のための行政の支援対策等	学識・研究者
	科学的データに基づく再生の手法、内容等	・草原の変化の実態(低木林への変化、草原状態の質的变化、変化のある部分とない部分など)の科学的データにもとづく把握とそれにもとづく再生の検討。 ・再生の内容、場所、維持、管理法、利活用等について。	学識・研究者
	将来土地利用計画	将来的な土地利用計画の策定	学識・研究者
I. 草原再生のための基礎調査・研究	草原再生のための諸条件の解明	阿蘇・久任草原の農業、林業、畜産業的利用を通じた草原の生態的、景観的、社会的機能の維持・再生のための諸条件の解明	学識・研究者
	地元主体の再生手法 近代農業技術の歴史的評価と野草地の多面的機能の評価	草原を守ってきた伝統的システムの再生を念頭に、再生の目標を大まかに分類し、地域住民が牽引役となる再生の手法や担い手像を明確化してみたい。研究者の立場としては、持続性や公益性の観点から近代農業技術の歴史的評価と野草地の多面的機能(恵み)の評価を試みたい。専門の知恵を拝借しながら、まず、できるところから手を着けていくものと思うが、あくまで草原を一部の視点から見るのではなく、地域循環の総体としてとらえたい。	学識・研究者
	生物多様性保全による環境便益 保全コストを考慮した適正な保全水準	阿蘇草原保全の重要性については、希少動植物のリストなどによって、自然科学的視点から主張されてきたと思います。その一方で、生物多様性を保全することの環境便益はどのくらいであるのか、あるいは、保全コストを考慮した場合に、適正な保全水準はどのくらいであるのか、といった問題も重要と考えますので、この点を検討してみたいと思います。	学識・研究者
J. その他	草原現場で現場を見ながら協議するのめどうかと思う。		農林畜産業
	地元住民との意見交換		農林畜産業
	今年度末(2006年3月末)に畜産業を中心とした就農を計画。自前の赤牛をプロジェクトへ参加させることで寄与したくも考えております。それと引き換えに牧野/牧草の提供をお願いしたく情報を期待しております。		農林畜産業
	草原の維持・再生についての多面的な政策等		ボランティア
	地元の産業再生を地元の農畜産業の方々と話し合ってみたい。		学識・研究者
	どのようなことから手をつけるべきかをともに考え、何らかの行動に参加していきたいので応募したもの		その他

協議会で検討・協議したいこと<団体・法人>

分類	協議会で検討・協議したいこと		組織
A．草原維持管理方針	採草地の利用・維持管理	採草地の今後の運営をどうやっていくか。	区・牧野組合等
	維持管理の担い手不足への対応	農村部の高齢化、後継者不足等のため、維持活動が難しくなっているためその問題をどのように解決していったらよいか。	区・牧野組合等
	維持管理の担い手不足への対応	有畜農家が減少していること。	区・牧野組合等
	里道の復活	阿蘇山麓北外輪山麓に里道の復旧、整備、景観保全。	区・牧野組合等
	地元主体の維持管理継続	地元主体の草原維持管理継続のための手法と事業展開。	その他団体
B．草資源の利用拡大	野草の流通、需要拡大	野草の流通システムの構築と需要拡大について。	地元NPO/NGO等
C．生物多様性保全	希少動植物の保全策	阿蘇の草原に生息生育している希少な動植物の保全策。	行政
	種の絶滅防止・回復のための持続可能な方策	阿蘇地域に固有の動植物や草原生態系などの生物多様性を、持続可能な方法で適切に保全して、阿蘇に生育する種の絶滅の防止・回復を図り、阿蘇の野の花を未来に引き継いでいくための方策について。	地元NPO/NGO等
	希少種保全策 盗掘等の防止策	今後3年以内に滅びる種の保全策を考える。 盗採、盗掘の罰則強化(現行方策は弱い)。	地元NPO/NGO等
	動物分布、生態系調査と活用	自然資源、特に手薄になっている動物の分布生息および生態系調査と活用等について。	その他団体
E．草原環境学習/普及啓発	阿蘇への入り込み者に対する普及啓発	阿蘇への入り込み者、利用者に対する普及啓発(優れた景観と多様な生物の生息地であるということだけでなく、多くの動植物が絶滅のおそれのあるという現状と利用する際のあるべき姿など)。	行政
	エコツアーの参加者への普及啓発	阿蘇の自然を活用したエコツアーについて(参加者に対する環境保全のための普及啓発及び注意事項等)。	行政
	地元子どもたちへの普及	地元の子どもたちを草原に興味を持たせ、草原を歩かせること。	地元NPO/NGO等
	関係機関との連携による草原環境学習の推進	阿蘇の草原環境学習を推進するにあたっての各関係機関との連携のあり方。	地元NPO/NGO等
	活動参加へのしくみづくり	次世代を担う方々がより興味、関心を持って取り組んでいける仕組み作り。	その他団体
	波野地区での環境学習や普及活動	阿蘇波野地区の草原での体験プログラムの開発、および実施。 波野の畜産業や草原維持活動のPR、理解者を増やすための取り組み。	地元NPO/NGO等
	草原利用と自然保護	草原の利用、自然保護等の関連について。	地元NPO/NGO等
	広範囲への普及活動	草原の成り立ちや必要性について調査し、より広く普及活動を行っていく。	地元NPO/NGO等
	広範囲への普及活動	草原の成り立ちや必要性についての調査、普及活動。	地元NPO/NGO等
広範囲への普及活動	草原環境学習の推進、阿蘇の草原維持・再生へ向けた関心喚起。	その他団体	
F．農畜産業の振興を通じた草原再生	畜産的利活用による草原再生	(1)阿蘇草原の積極的な畜産的利活用による草原再生、(2)利用牧野評価及び放牧利用計画調査、(3)牧野土地利用計画図の作成、(4)牧野活性化及び放牧流動化、(5)広域放牧の取り組み	関係機関
	新規参入、後継者問題	新規参入者や後継者問題	区・牧野組合等
	農畜産業との連携、草原維持のための農業形態	貴重な阿蘇の草原は、地域の農業の維持・発展を抜きにしては考えられません。地域の農家の方々との協力体制をどのように作っていくのか。阿蘇草原維持のための新しい農業形態の取り組みが創造できないのか。草原再生のために持続可能な事業につながることを協議していきたい。	地元NPO/NGO等
G．草原再生を活かした観光振興・地域振興	自然環境を活かした観光振興策	阿蘇の美しい自然を活用した観光振興策	行政
	草原再生による地域振興	地域振興に結びつく形での草原再生の方策	その他団体
H．草原として維持する範囲の検討	森林保全と草原再生の調和	森林保全と草原再生の調和。	行政
I．草原再生のための基礎調査・研究	景観生態学の手法、GISによる評価手法の検討	景観生態学の手法による阿蘇の草原及び火山・森林・河川等の自然環境全体の生物多様性保全機能、景観保全機能、防災機能等の評価手法の検討。上記の景観生態学の手法を用いたGISによる環境ベースマップ及びデータベースの構築、エコロジカル・マネジメントシステムの試行。	その他団体

既に行っている活動やこれから活動しようとする内容<個人>

分類	既に行っている活動やこれから活動しようとする内容	分類
農家への野草の提供 野草地の放牧利用の検討	数十年前までは急傾斜への放牧や採草が行われていましたが、近年は大型機械の普及により野草地の荒廃が目立つようになりました。数年前より我が家では友達数人と茅を切り、ハウス農家へわけてあげてよこばれていきます。また、野焼きのときの作業を軽減することにもなっているようです。茅を切るのもやはり急傾斜は残ってしまいます。牛を放牧することにより解決できると考えています。跡ヶ瀬牧野をお手本に出来たらと思います。	農林畜産業
利用・維持管理活動 林地の草地への転換	・放牧や採草による維持管理の進め ・防火帯作り、野焼きを住民参加による作業 ・林地の草地への検討。広域放牧の推進。	農林畜産業
モーモー輪地切り オーナー牛 ボランティア導入	平成12年から17年2月まで木落牧野組長をして、いろいろな会議に出席した。主に草原再生の話会。自然環境局、グリーンストック、メッツの人たち、ボランティアの人たちと輪地切りの講習会(木落原野)、グリーンストックのお世話でオーナー牛も取り入れた。草原再生はなんといっても牛馬を多く放牧、そして採草するにすぎない。モーモー輪地切りもした。だいたい成功したと思う。	農林畜産業
野焼き・輪地切り	跡ヶ瀬牧野組員として協議会の発足に非常に興味を感じ、是非参加希望する。	農林畜産業
野焼き 野草の利用	野焼き、野草梱包、野草の無償提供	農林畜産業
利用・維持管理活動	跡ヶ瀬牧野組員として協議会の発足に非常に興味を感じ、是非参加希望する。	農林畜産業
野焼き・輪地切り	輪地切り、輪地焼き、野焼き	農林畜産業
支援ボランティア活動、赤牛オーナー	財団法人阿蘇グリーンストックの活動 ・野焼き支援ボランティア(野焼き・輪地切り)、涵養林作り、赤牛オーナー	ボランティア
支援ボランティア活動、赤牛オーナー	野焼き支援ボランティアとして「野焼き・輪地切り(焼き)」活動。放牧牛の増加と畜産農家の拡大を図る「赤牛オーナー」として活動。	ボランティア
支援ボランティア活動	阿蘇グリーンストック(輪地切り支援ボランティア)に登録。活動としては、野焼きの後の草寄せなどです。これからは草の下刈り、ゴミ・空缶拾いなどをやってみようと思っています。	ボランティア
野焼き・輪地切り	植林された周辺山林の荒廃や、原野が荒れていくのを憂えているだけで何一つ顕著な活動歴も行動計画も持たぬのが口惜しい限りである。但、共有採草地の野焼きや防火線(輪地切り)焼きには25年以上欠かさず参加している。	その他
個人所有の草原管理	5年前、現在仕事場としている山(原野)を手に入れました。最初はどうにも手に負えない雑木、雑草に覆われ大変な山でした。主人と2人で来る日も来る日もそれらの物を切り、刈ることを1年、2年と続けているうちにいろいろな花、木が育ってきています。4年過ぎ、5年過ぎ少しずつ野草好きな人たちの訪れがあります。この間、いろいろと助言をしてくださる方々の力をお借りし、励まされ、どうにかやっております。しかしもっと野花を知り、増やし育てていくつもりです。来春には初めてですが小規模の野焼きを計画中です。	その他
シードペレットによる 傾斜地保全の研究	傾斜地の多い阿蘇地域における、阿蘇・草地のあり方の一つとして、特に、斜面においては、野草地のまま利用する、あるいは、牧草と野草の混在草地にした場合など、放牧利用を通じての植生変化やエネルギー利用効率の観点から、基礎的研究を行ってきた。今後は、降水量の多い阿蘇地域の草原から流亡する大量の表土(黒ボク土)と在来種野草の種子で作成したシードペレットにより、特に、傾斜地の保全を図る研究を進展させる。また、阿蘇地域の貴重な資源としての、水資源の有効利用と保全を進展させる研究を行う。	学識・研究者

分類	既に行っている活動やこれから活動しようとする内容	分類	
B. 草資源の利用拡大	野草の循環利用 普及啓発活動	毎年3月に元黒川地区の皆さんと野焼きを行っている。 阿蘇の野草を使つてのバイオマスの研究。 阿蘇の紹介(インタープリター)。	地元有識者
	草原再生シール野菜の 直売	毎週土曜日(AM)、入船市場(植木町)&Giardino(イタリア料理店/熊本市) &MASA'S DINER(ハンバーグ&ハワイアン料理店/熊本市)への草原再生野 菜の直売	農林畜産業
	植物生態学的草原調 査、草の循環利用 普及啓発活動	1999年に宮崎大学農学部へ赴任して以来、様々な季節に阿蘇の草原を訪れ て草原の植物生態学的な調査を行ってきました。その過程で、阿蘇は草原 を草資源として活用する慣習が農業機械体系のなかでも残る日本では稀有 な地域であることに驚きました。阿蘇で行われた草原シンポジウムではボ ランティアとして火の粉消しを体験しました。今後は草堆肥による農産物 生産について研究と普及啓蒙に努めたいと思っています。	学識・研究者
	草資源の利活用に関 する技術的活動 バイオマスエネルギー 化プラントの開発研究	九州バイオマスフォーラムの理事として、阿蘇の草資源の利活用に関する 技術面の活動を行っている。また、現在、独立行政法人農業・生物系特定 産業技術研究機構九州沖縄農研センターに勤務しているが、現在までの農 林水産省における研究活動としては、昭和63年から平成3年まで草地試験 場放牧利用部において放牧の自動化の研究に従事し、平成7年からは九州 沖縄農研センター畜産飼料作研究部において家畜排せつ物等の堆肥化及び 成型堆肥の生産利用技術の開発を行うと共に、バイオマスのエネルギー化 プラントの開発研究や食品残さの飼料化の研究を実施している。現在まで の研究蓄積を活用し、阿蘇の草原再生に向けて、草資源を飼料として、ま た、堆肥化原料、エネルギー資材等としての利用拡大をはかれるシステム 構築を行っていきたい。	学識・研究者
C. 景観保全	持続的な維持管理に向 けて、環境認識や立地 特性を踏まえた地域景 観計画の検討	国立公園など自然風景地の景観に関する研究分野においては、人の手によ って維持管理される二次的自然の景観を多様な主体(地域住民、ボラン ティア、行政など)の参画によって如何に持続的に管理していくか、が今 後の大きな課題となると考えられる。特にそれを地域計画や行政の施策と して進めていく上においては、地域住民をはじめ景観に関わる多様な主体 の環境認識(誰もが共通に重要だと認識する景観、地域らしさやシンボル 性を在する景観)と、それらの立地特性の関係を把握し、それを地域景観 計画(国立公園計画、景観法による計画など)に反映させていく必要があ る。こうした考えにもとづき、その基礎的研究を財団法人自然環境研究セ ンターや環境省などの協力を得ながら実施してきた。今後もそれらの研究 のさらなる検証と施策への展開の可能性について計画論的な観点から研究 したい。	学識・研究者
D. 生物多様性 保全	草原の動物相調査	阿蘇・草原の動物相(特に昆虫類)の把握	地元有識者
	湿地植物相、草原の推 移、希少植物	・阿蘇草原地域の湿地植物相および植生調査 ・阿蘇草原(湿地を含む)の遷移の調査研究 ・阿蘇地域の希少植物調査(いずれも現在実施中)	学識・研究者
	草原再生事業実施地及 び実証試験地における 植生・環境調査	草原維持管理実証試験地における植生および環境の調査・研究 希少植物の分布と個体群動態に草原の立地条件・管理条件が及ぼす効果 の調査・研究 草原の立地条件・管理条件の違いが植生の種組成及び多様性に及ぼす影 響についての調査・研究 モーモー輪地、森林除去、火入れ再開等、阿蘇草原再生の各種事業の効 果検証 放棄草原への牛の導入による植生改善効果の検証 火入れ放棄によるススキ草原の植生変遷の解明 利用形態の異なる草原の季節生産性の解明 牧野の周年放牧利用に向けた冬季放牧飼料の簡易な確保技術の開発 など。 畜産的な利用が阿蘇地域の半自然草地生態系に及ぼす効果の解明とその 応用技術の開発(H18-22実施予定課題)	学識・研究者
	希少野生動物の保護 管理、昆虫調査、普及 啓発	既に行っている行動 県指定希少野生動物のオオルリシジミなどの保護管理。 阿蘇地域の短草型草原・長草型草原に生息する昆虫の生息分布調査。 阿蘇草原の蝶の講演を通しての啓発。 これから活動しようとする内容 阿蘇草原性昆虫のデータベース作成。 地元住民による希少昆虫の保護管理。	学識・研究者

分類	既に行っている活動やこれから活動しようとする内容	分類	
E. 普及啓発 / 草原環境学習	教育普及活動 調査・研究	・博物館やNPOを通じた教育普及活動。 ・火山と人の関わりの部分での調査・研究。	地元有識者
	修学旅行性や一般訪問者等への普及活動 阿蘇に関する調査・研究	・阿蘇の草原およびその再生活動についての、修学旅行生たちへの教育普及 ・一般訪問者や研修団体等に対する、阿蘇の自然と文化についての講演、現地案内 ・阿蘇を調査研究する者たちとのネットワークづくりと、研究報告書の作成、出版等。	地元有識者
	野生動植物保護活動 ガイドを通じた普及啓発	阿蘇自然案内人協会として、また、阿蘇の自然を愛護する会、阿蘇市野生動植物保護監視員として活動している。野生動植物の保全のため、その植生の様子を観察したり、映像として(カメラで)残すことにしている。	地元有識者
	写真を通じた広報、啓蒙	写真を通じた広報、啓蒙。 写真教室で写真を使った生涯学習などによる啓蒙活動。その他。	地元有識者
	草原文化の伝承	草原文化の伝承(草泊まり作り)その他刈干し切りの昔からの伝承作業内容の実施(グリーンストック)本年10月末より。	地元有識者
F. 農畜産業の振興を通じた草原再生	環境保全型農業 それを国民が支えるシステム構想	直接草原再生にはかかわっていないが、阿蘇の草原と田んぼの畦は、じつによく似ていると思います。私たちは田んぼや畦や水路の動物、植物と百姓仕事との関係を解明し、それを百姓だけでなく、国民が支えるシステム(政策)を構想しています。	学識・研究者
	畜産の見地から阿蘇・草地の有効利用を進める研究	傾斜地の多い阿蘇地域における、阿蘇・草地のあり方の一つとして、特に、斜面においては、野草地そのまま利用する、あるいは、牧草と野草の混在草地にした場合など、放牧利用を通じての植生変化やエネルギー利用効率の観点から、基礎的研究を行ってきた。今後は、畜産の見地から阿蘇・草地の有効利用を進める研究を継続する。	学識・研究者
I. 草原保全のための調査・研究	リモートセンシングによる草原分布の解析	リモートセンシングによる草原分布状況の解析と判読	学識・研究者
	阿蘇草原の植生、希少種に関する調査研究 各種活動団体への参画	阿蘇草原の植生、希少種(オキナグサ)の個体群などの野外調査研究のほか、財団法人阿蘇グリーンストック、NPO法人阿蘇花野協会、NPO法人九州バイオマスフォーラムの活動にも関わっている。2000年7月「阿蘇の草原とツーリズム国際シンポジウム」、2001年12月「阿蘇まるごとフェスタ」、2002年3月「阿蘇草原サミット・シンポジウムin阿蘇」、2002年11月「平成14年度阿蘇グリーンストック会員総会」、2004年2月「牧野組合等との意見交換会」、2004年8月「草資源活用座談会」、2004年12月「草資源活用シンポジウム」、2005年2月「阿蘇草原再生シンポジウム」などに講師として、2005年5月「草資源流通構想懇談会」などに委員として参画。	学識・研究者
	草原の保全価値の経済評価	阿蘇草原の保全価値の経済評価の研究を1990年代の後半から実施してきました。この10月には、アラスカで行われた第8回世界野性会議で、阿蘇草原の保全活動の経済評価について報告しましたので、そのときのパワーポイントのファイルを添付いたします。これからの活動予定としましては、野草地に対する適切な環境支払額の評価、野焼き等へのボランティア活動に関する経済分析、バイオマス資源の経済評価などの研究を考えております。	学識・研究者
	草地に対する環境支払い、維持再生に必要なシステムの解明	文部科学省科学研究費・基盤B(17年～19年)『生態系調和型農業への政策転換と日本版GAPの構築に関する総合的研究』の研究対象地区の一つとして、阿蘇・久住草原を取り上げ、既に調査研究を開始している。研究の目標は草地(とくに野草地)に対する環境支払い(直接支払い)の学術的基礎付けであるが、この切り口から阿蘇・久住草原の維持再生に必要なシステムを社会科学的に解明したい。	学識・研究者
その他	岡山県職員として30年の間に関係した。昭和30年のジャージー牛導入にはじまる。蒜山大規模草地開発事業。田、真庭とに関与し(県営)、現地、県庁、試験場と一貫して草地関係の仕事に従事した知識、経験の一端をお役に立てればと思ひ応募する次第です。もちろん老骨であり、20年のブランクもあり、直接関与することは難しいと思いますので、助言者として利用いただけたら幸いです。	その他	
	ずっとうちの近く、里川(魚影濃い)(川の透明)(山の腹)外輪山にかけ回っていた。昔小さい時から青い空、草原緑濃い、星空がいっぱい、景色も美しい、記憶している。最近開発がひどく進んでいるので痛感している。また希少動植物、川魚など減少している。これから再生しようと思います。	その他	
	ボランティアとか野草と同じく草花の再生。春はハルリンドウの花、夏はなでしこの花、われもこう、秋はリンドウの花、山ゆりの花。彼岸花は水田の道端に植える(10年前からしている)。	農林畜産業	

既に行っている活動やこれから活動しようとする内容<団体・法人>

分類	既に行っている活動やこれから活動しようとする内容	分類	
A. 草原維持管理活動	ボランティア導入による維持管理継続	防火線焼、鉄条網張り、野焼き、ボランティアの人たちに大変お世話になっております。今後ともよろしく願い申し上げます。	区・牧野組合等
	輪地切り、野焼き等による維持管理	輪地切り、輪地焼き、野焼きにより草原の維持 牛馬の放牧や野草の飼料や堆肥としての利用により草原を維持できるよう努力しています。	区・牧野組合等
	組合、地域の連携による草地の維持・管理等	阿蘇市前阿蘇町草地畜産協議会の組合協議会における活動。国、県、市、当局等に申請。組合間の草地の造成機械、草地管理の共同利用等。地域連携による草地の管理、草地の維持、野草管理、育成供給を通し草地の維持を計って組合活動としている。	区・牧野組合等
	モーター輪地切り	モーター輪地切りを行っている。	区・牧野組合等
	モーター輪地切り	モーター輪地切り、放牧地の手入れ	区・牧野組合等
	モーター輪地切り	採草地の野焼き、採草地をモーター輪地切りによる牛の放牧を行っています。	区・牧野組合等
	放牧利用、維持管理	放牧を主として草原の維持管理を行っている。	区・牧野組合等
	利用・維持管理活動	野焼き、放牧、採草	区・牧野組合等
	野草の循環利用 維持管理活動支援	NPO法人九州バイオマスフォーラムの企画に共鳴し、野草の採集作業に協力 牧野組合の野焼きなどの草原維持管理作業を支援 農業体験者等に対して、阿蘇の草原維持は、人と牛馬、自然の3者一体の歴史的維持によってなされていることを訴求	地元NPO/NGO等
	再生試験地管理	草原再生実証実験地の草刈り、輪地切り、野焼きを実施中(継続していくこと。	地元NPO/NGO等
B. 草資源の利用拡大	野草の流通、草原保全とビジネスの両立	野草の流通や利用されていない野草地の採草を行って、草原保全とビジネスの両立を目指しています。	地元NPO/NGO等
C. 景観保全	野花の保護、再生 景観、環境保全	野花の保護、再生 景観、環境保全	区・牧野組合等
D. 生物多様性保全	希少野生動植物の保護	熊本県野生動植物の多様性の保全に関する条例に基づく希少野生動植物の保護及び保護区の管理。	行政
	花野再生のためのトラスト地の取得 持続可能な方法による、種の絶滅防止・回復	阿蘇花野協会は、地域の人々や阿蘇を訪れる多くの人々に対して、人と自然とが共生することによって育まれてきた阿蘇の野の花の植物学的価値や文化的豊かさを広く啓発するとともに、阿蘇の野の花が豊かに咲く花野の保全・再生に関する事業を行い、長い歴史の中で育まれた阿蘇地域に固有の動植物や草原生態系などの生物多様性を、持続可能な方法で適切に保全して、阿蘇に生育する種の絶滅の防止・回復を図り、阿蘇の野の花を未来に引き継いでいくことに寄与することを目的とする。 H16/10/1...花野再生の為のトラスト地取得。	地元NPO/NGO等
	野の花の保護、帰化植物駆除	吉野の再生のみならず、利用率低下による優先種(ススキ、ヨシ、オギ)の抑制を考えること。夏草刈りの実施(春型野の花保護策)。帰化植物(セイタカ、オオバタクサ)の退治。	地元NPO/NGO等
	希少動植物保護	平成15～16年度：阿蘇地域自然再生推進計画調査「草原管理手法に関する検討部会」に検討委員として出席(自然保護課長) 平成17年度：「阿蘇草原再生協議会設立準備会」、「阿蘇草原再生に向けた意見交換会」出席 平成12～17年度：県指定保護区において希少野生動植物の保護のため、草刈り等の保護対策を実施。	行政
E. 普及啓発/草原環境学習	資料収集、調査・研究 教育普及活動 自然体験プログラムの開発、実施	・阿蘇全般に関する資料の収集 ・保存、調査・研究、教育普及活動。調査 ・研究にもとづく資料や情報の展示 ・自然体験プログラムの開発、実施など。	地元NPO/NGO等
	子どもたちを対象とした草原体験や自然観察	修学旅行や体験学習において、牛道を歩いて牛と草原のかかわり等の説明、体験を実施。阿蘇野草園や休暇村敷地内の野草散策や自然観察の実施。	地元NPO/NGO等
	草原環境学習をねらいとする主催事業実施による人材育成	環境学習にねらいをのこした主催事業の中で、阿蘇の草原の価値や魅力、歴史や現状、再生・保全の必要性等を学ぶことを通して、阿蘇や自分の暮らす地域の自然環境保全に寄与できる人材の育成を図っている。今後は、さらに関係機関との連携を深め、阿蘇の草原環境をはじめとする自然環境の再生や保全に深くかかわれる人材が育成できるよう、主催事業の企画・実施に取り組んでいきたい。	地元NPO/NGO等

分類		既に行っている活動やこれから活動しようとする内容	分類
E . 普及啓発 / 草原環境学習	インタプリター養成 自然体験プログラムの開発、実施	阿蘇全般に関する資料の収集・保存、調査・研究、教育普及活動。具体的には阿蘇副読本の作成、インタプリター養成講座の開講、自然体験活動プログラムの開発など。	地元NPO/NGO等
	草原再生に関する教育活動	草原再生に関する教育活動(児童、生徒に草の道の観察会等を実施し、草原の現状、維持、重要性を指導する)	地元NPO/NGO等
	エコ・ツーリズムの観点からの普及推進	阿蘇の自然のなかでも特に草原や火山、または植生のことをエコ・ツーリズムの観点から来訪者に詳しく伝えていく。また、案内人の育成につとめ、後継者を確保していく活動を進めていきたい。	地元NPO/NGO等
	子どもたちの体験活動	福岡、熊本など都市部の小中学校や子ども会等を中心に、自然体験(草原ハイキング、山野草の観察)や畜産体験(放牧牛の世話等)を実施している。	地元NPO/NGO等
	子どもパークレンジャー 阿蘇エコツアーガイド	子どもパークレンジャー事業(2000年～継続中、環境省・文部省主催九州地区事務局) 阿蘇エコツアーガイド(2000年～継続中) - 修学旅行、一般、研修会などでの中央火口丘を中心とした阿蘇の自然や文化などの解説。	その他団体
	子どもたちを対象とした普及活動	児童、生徒などを対象に、草原の生き物や草花たちとのふれあいをとおして、農、食、水、環境の大切さを体感していける活動を充実させていきたい。	地元NPO/NGO等
F . 農畜産業の振興を通じた草原再生	阿蘇あか牛のブランド化	「阿蘇あか牛肉料理認定店制度」 - 阿蘇あか牛のブランド確立と地産地消、草原の維持を目的に、現在11店舗を認定している。	行政
	GISによる牧野評価及び放牧利用計画調査 GISによる草地畜産高度化技術促進事業(放牧利用促進支援システム整備)	平成14～16年度本協会が実施した草地管理高度化技術調査委託事業による地理情報システム(GIS)利用牧野評価及び放牧利用計画調査 高分解能衛星データを取得し、九州東海大学との共同研究により阿蘇市所有7牧野周辺についてデジタル画像化。牧野の植生、野焼きの面積及び経年変化、チカラシバの侵入状況、牧野の分級、草の生産量について解析。これらを基にモデル的に7牧野組合を中心とした土地利用計画図を作成し牧野活性化及び牧野流動化の推進資料として活用。 平成17～19年度は本協会が実施する地理情報システム活用による草地畜産高度化技術促進事業 (1)放牧利用促進支援システム整備(対象:黒川牧野) 放牧重点地区において人工衛星画像等の地理情報を利用して、放牧対象地の現状把握、放牧管理台帳の作成及び周辺未利用地・林地の評価・活用手法等を可能とするシステムを構築し、省力かつ的確な放牧管理システムの整備を行う。	関係機関
G . 草原再生を活かした観光振興・地域振興	カルデラツーリズム	平成14年3月15日～17日に行われた、第5回全国草原シンポジウム・サミットin阿蘇の資料を添付します。	地元NPO/NGO等
	草原の畜産以外の利用	これからの活動として、草地利用・使用でのキャンプ活動	区・牧野組合等
	景観を活かした観光振興	これまで、阿蘇での環境学習による修学旅行の誘致を行っている。今後も、これまで多くの人手で守られた阿蘇の自然、草原等美しい景観をPRすることにより、修学旅行の誘致や観光客の誘致を図りたいと考えており、一緒に阿蘇の美しい景観を守るための取組を推進していきたい。	行政
I . 草原保全のための調査・計画	自然資源調査	平成11～13年北外輪西湯浦地区の自然資源(動物、植物、生態系)調査及び活用法提案(グリーンストックより受注)	その他団体
	阿蘇草原再生に向けた調査・事業実施	平成8年より環境省の阿蘇の草原保全・再生に向けた調査・事業の委託を受け、牧野組合に関する調査、輪地切り省力化手法、草原環境学習の推進、情報発信・合意形成等に関する調査を実施。	その他団体
	GISによるデータベース作成、エコロジカル・マネジメントの提案	本会では、地域の自然を地生態学・景観生態学を基礎とする多面的なフィールドワークによって調べ、そこから得られた知見をGIS・リモートセンシング等の技術を使って環境ベースマップを作成し、解析評価するなど、自然の保全や再生に関わる総合的な技術の開発と研鑽につとめています。また、これらの実践結果を公開することによって、自然環境の調査・解析・計画にかかわる人々、保全活動を実践する人々と技術や情報を共有し、自然環境保全に資する活動を進めていくことを目的としています。現在、社会人や学生向けに景観生態学・GISの講習会を行っております。また、北海道サロベツ原野の自然再生協議会に参加して、景観生態学に基づく評価やデータベース作成のお手伝いを行っております。今後、阿蘇の草原再生のためにGISによる環境ベースマップ及びデータベースの作成やそれに基づく「エコロジカル・マネジメント」の実施の提案と実施のお手伝いを行いたいと考えております。	その他団体

分類	協議会で検討・協議したいこと		組織
草原環境学習 / 普及啓発	地元子どもたちへの普及	地元の子どもたちを草原に興味を持たせ、草原を歩かせること。	地元NPO/NGO等
	教育現場への普及	阿蘇付近の市外内学校へ説得する。また自然学校などを建てる。	その他
	地域の人々への普及	地域の人たちに今の現状を分かってもらうこと（学校での取り組みなど）	農林畜産業
	阿蘇への入り込み者に対する普及啓発	阿蘇への入り込み者、利用者に対する普及啓発（優れた景観と多様な生物の生息地であるということだけでなく、多くの動植物が絶滅のおそれのあるという現状と利用する際のあるべき姿など）。	行政
	エコツアーの参加者への普及啓発	阿蘇の自然を活用したエコツアーについて（参加者に対する環境保全のための普及啓発及び注意事項等）。	行政
	広範囲への普及活動	草原の成り立ちや必要性について調査し、より広く普及活動を行う。	地元有識者
	広範囲への普及活動	多くの方が再生に向けて参加していただく方向を検討して、一人でも多くの方が協力していただくようあらゆる方面に働きかけていくことが大切。このようなことを協議していかねばならないと思う。	ボランティア
	広範囲への普及活動	草原の成り立ちや必要性について調査し、より広く普及活動を行っていく。	地元NPO/NGO等
	広範囲への普及活動	草原の成り立ちや必要性についての調査、普及活動。	地元NPO/NGO等
	広範囲への普及活動	草原環境学習の推進、阿蘇の草原維持・再生へ向けた関心喚起。	その他団体
	波野地区での環境学習や普及活動	阿蘇波野地区の草原での体験プログラムの開発、および実施。波野の畜産業や草原維持活動のPR、理解者を増やすための取り組み。	地元NPO/NGO等
	草原文化伝承	阿蘇の乾草切り（刈乾）についての論文作成と土畦の再構築で昔の文化の伝承を	地元有識者
	活動参加へのしくみづくり	次世代を担う方々がより興味、関心を持って取り組んでいける仕組み作り。	その他団体
	畜産以外の利用とルール	実際に草原再生の現場に人を入れるときの、その入れ方と問題点。	地元有識者
	草原利用と自然保護	草原の利用、自然保護等の関連について。	地元NPO/NGO等
	関係機関との連携による草原環境学習の推進	阿蘇の草原環境学習を推進するにあたっての各関係機関との連携のあり方。	地元NPO/NGO等
草資源の利用 拡大	野草の流通、需要拡大	野草の流通システムの構築と需要拡大について。	地元NPO/NGO等
	地域内での野草の循環利用、野草地の放牧利用	茅野を利用しハウス農家とのつながりを強くする。野草地への放牧の検討。	農林畜産業
	野草堆肥による農産物生産	草原の野草堆肥による農産物作り	農林畜産業
	野草堆肥による農産物生産	草堆肥による農作物生産、地域循環型農業システムの振興	学識・研究者
	バイオマス	地域活性化の一つの方法としてバイオマスを取り入れたいこと	地元有識者
	草資源の利用技術の普及、流通	草資源利用拡大のための利用技術の普及、流通・供給態勢の整備	学識・研究者
	草資源の新たな活用法	水環境、草資源の新たな活用法について検討・討議したい。	学識・研究者
景観保全	外輪山の風車建設	外輪山の稜線における風車建設はやめるべきでしょう。誰もが景観としてそぐわないと言っています。	地元有識者
	風景地の利用者の立場からの景観資源に着目した検討	広域的視点からの阿蘇草原再生構想の作成、特に風景地の利用者の立場からの景観資源に着目した検討(例えば、散策歩道(フットパス)のネットワーク提案、阿蘇の二次草原の景観効果を最大限に発揮させるための景観管理計画の検討、それらに基づく国立公園計画の見直しなど)。	学識・研究者

分類	協議会で検討・協議したいこと		組織
農畜産業の振興を通じた草原再生	畜産の利活用による草原再生	(1)阿蘇草原の積極的な畜産の利活用による草原再生、(2)利用牧野評価及び放牧利用計画調査、(3)牧野土地利用計画図の作成、(4)牧野活性化及び牧野流動化、(5)広域放牧の取り組み	関係機関
	新規参入、後継者問題	新規参入者や後継者問題	区・牧野組合等
	農畜産業との連携、草原維持のための農業形態	貴重な阿蘇の草原は、地域の農業の維持・発展を抜きにしては考えられません。地域の農家の方々との協力体制をどのように作っていくのか。阿蘇草原維持のための新しい農業形態の取り組みが創造できないのか。草原再生のために持続可能な事業につながることを協議していきたい。	地元NPO/NGO等
	環境保全型農業政策	田んぼとの関係。環境農業政策の提案。	学識・研究者
	畜産振興による草原の保全・維持・再生	畜産振興による草原の保全・維持・再生	学識・研究者
	農畜産振興による草原の保全・維持・再生	農畜産業の振興による草原の保全・維持・再生	学識・研究者
草原再生を活かした観光振興・地域振興	自然環境を活かした観光振興策	阿蘇の美しい自然を活用した観光振興策	行政
	草原再生による地域振興	地域振興に結びつく形での草原再生の方策	その他団体
全体	森林保全と草原再生の調和	森林保全と草原再生の調和。	行政
	将来土地利用計画	将来的な土地利用計画の策定	学識・研究者
	具体的な再生計画、行政支援	草原再生のタイムスケジュールと再生範囲の設定、草原再生のための行政の支援対策等	学識・研究者
	多面的な政策等	草原の維持・再生についての多面的な政策等	ボランティア
	景観生態学の手法、GISによる評価手法の検討	景観生態学の手法による阿蘇の草原及び火山・森林・河川等の自然環境全体の生物多様性保全機能、景観保全機能、防災機能等の評価手法の検討。上記の景観生態学の手法を用いたGISによる環境ベースマップ及びデータベースの構築、エコロジカル・マネジメントシステムの試行。	その他団体
	科学的データに基づく再生の手法、再生の内容等	草原の変化の実態(低木林への変化、草原状態の質的变化、変化のある部分とない部分など)の科学的データにもとづく把握とそれにもとづく再生の検討。再生の内容、場所、維持、管理法、利活用等について。	学識・研究者
	科学的データに基づく再生手法の適用	シードベレットによる草原修復	学識・研究者
	草原再生のための諸条件の解明	阿蘇・久住草原の農業、林業、畜産的利用を通じた草原の生態的、景観的、社会的機能の維持・再生のための諸条件の解明	学識・研究者
生物多様性保全による環境便益 保全コストを考慮した適正な保全水準	阿蘇草原保全の重要性については、希少動植物のリストなどによって、自然科学的視点から主張されてきたと思います。その一方で、生物多様性を保全することの環境便益はどのくらいであるのか、あるいは、保全コストを考慮した場合に、適正な保全水準はどのくらいであるのか、といった問題も重要と考えますので、この点を検討してみたいと思います。	学識・研究者	
その他	草原現場で現場を見ながら協議するのめどうかと思う。		農林畜産業
	地元住民との意見交換		農林畜産業
	今年度末(2006年3月末)に畜産業を中心とした就農を計画。自前の赤牛をプロジェクトへ参加させることで寄与したくも考えております。それと引き換えに牧野/牧草の提供をお願いしたく情報を期待しております。		農林畜産業
	地元の産業再生を地元の農畜産業の方々と話し合ってみたい。		学識・研究者
	どのようなことから手をつけるべきかをともに考え、何らかの行動に参加していきたいので応募したもの		その他